

信州ブレイブウォリアーズは、B1に昇格して2シーズン目になります。2026年にスタートする新リーグへの参入を果たすためにも、長野市や千曲市において知名度を上げ、ファンベースを膨らませることが欠かせません。地域活性化をクラブの活動理念の第一に掲げる当社は、プロスポーツの力で地域経済の発展にも寄与していきます。信州ブレイブウォリアーズをぜひフル活用してください。

## 2026年の新リーグ参入に向けた挑戦

—— 信州ブレイブウォリアーズの今後の展望を教えてください。

片貝 トップリーグB1に昇格させていただいてまだ2シーズン目です。事業規模もチーム力も、トップクラブと大きく差が開いています。そこを一歩一歩詰めていくこと、つまり競技においては順位を上げ、**事業面では売上や入場者数を毎年着実に伸ばし**

**経営規模を拡大**することが課題です。

2026年に現行のBリーグは、名称はそのままで新リーグに変革されます。新B1に参入するには、入場者数平均4,000人以上、売上高12億円以上、新設アリーナのハード・ソフト両面の充実という厳しい基準を満たさなければなりません。2023―24シーズン終了後に行われる申請審査に向け、現在全社を挙げて活動しています。バスケットボールはたくさん点が入るスポーツで、1点を争う勝負が多いサッカーと違い、ジャイアントキリングはめつたに起きません。競技の結果やチームの成績は、会社の資金力、選手への投資に比例します。また、強くて魅力あるチームはファンを獲得するうえで重要な要素ですが、プロ野球やJリーグサッカーに比べ産業規模が小さいBリーグを盛り上げるには、まず運営会社力が付けないとなりません。新リーグ参入に向け、スタッフはアクセルを踏み取り組んでいます。

## かたかい まさひこ 片貝 雅彦氏

株式会社信州スポーツスピリット 代表取締役社長

1978年群馬県出身。幼少時代を関西や広島で過ごし剣道と野球を楽しむ。1992年、高校生の時にバルセロナ五輪からプロ選手解禁になり出場したバスケットボールの米国代表「ドリームチーム」を見て衝撃を受けバスケットボールを始める。1997年高校卒業後渡米し、ネバダ州立大学でジャーナリズムを専攻しスポーツジャーナリストを目指す。移り住んだニューヨークで独立リーグのバスケットチームの立ち上げと運営に携わる。帰国後、bjリーグの本社勤務を経て、2011年信州ブレイブウォリアーズのbjリーグ参入初年度に入社、翌年から現職。

# 地域に根ざした「我が街のクラブ」を目指し プロスポーツの力で経済を盛り上げます ぜひアリーナへ足をお運びください

のコミュニケーションも大切にします。

おかげさまで、長野市における認知度は83%ぐらまで上がりました。ただ、当チームの試合を観たことがない方がまだたくさんいらっしゃいます。もつと間口を広く、敷居を低くして、今までバスケットボールを生で観戦したことのない方にとにかく一度アリーナへ来ていただきたい、それが**日常化**してくれば、バスケットボールが**文化**として息づくと考えます。

## クラブと街が一体化したモデルを 長野にも

—— スポーツクラブと地域との関わりにおいてモデルとするところはありますか。

片貝 アメリカンフットボールの本場アメリカに、グリーンベイパッカーズというチームがあります。ホームタウンのウイスコンシン州グリーンベイは、人口10万人の少ない片田舎の街ですが、試合がある日は街全体がお祭り騒ぎになり、8万人収容のスタジアムが一杯になります。その街に生まれるとクラブの株券がもらえるそうで、市民チームのオーナーです。パッカーズという名前も、チーム創設者が当時勤めていた缶詰製造業社に由来します。それほどクラブと街が一体化しています。しかも、パッカーズはリーグチャンピオンの獲得回数が歴代最多の

13回を誇ります。全米王者のチームが我が街にあることのプライド、ふるさと愛を醸成できる力がスポーツにはあるのです。そんなモデルを長野市にもつくりたいですね。長野市には善光寺という素晴らしい文化財があり、「善光寺さん」として誰からも親しまれています。バスケットボールも市民の日常となり、いつか**無形文化財**のような存在になればと願っています。

長野県の先輩クラブにも多くを学んでいます。A C長野パルセイロさんは、長野商工会議所はじめ地元経済界と強いつながりを構築されています。また篠ノ井駅前には、街路灯や横断幕パナー、花でオレンジに染まり、スポーツがまさに文化になっていると感じます。松本山雅FCさんもサポーターや街とのつながりが強固です。信濃グランセローズさんは全県で試合をされ、幅広い地域でファンを獲得しています。

**私の夢は、「我が街のクラブ」として信州ブレイブウォリアーズを300年続かせることです。**

## 産業振興にも貢献できる プロスポーツの力

—— 長野商工会議所に望まれることはありませんか。  
片貝 北村会頭や水野副会頭には、信州ブレイブウォリアーズの後援会に入っていたりしております。今後、**後援会のネットワークづくり**にご協力いた

ところで、一昨年のチームB1昇格は、ホワイトリングをホームアリーナとして使わせていただけのようになったことが大きな要因でした。同じくホームタウンである千曲市とともに、長野市においてもチームの認知度を上げ、ファンベースを膨らませたいです。そして、**観客動員数を安定して確保するには、市と連携した「コミュニティ活動に努め、バスケットボールに無関心な方にも名前を知っていただき、ホワイトリングへ足を運んでいただく素地をつくっていく**ことが第一と考えています。

## クラブの活動理念の第一は 地域活性化

—— 御社信州スポーツスピリットの地域における役割について、どうお考えですか。

片貝 当クラブでは、ウォリアーズタウン構想「バスケットで街おこし」において、長野県(信州)全域をバスケットボールの街「ウォリアーズタウン化」することを目標に、3つの活動理念のもと、**バスケットボールを通じて信州をもっと元気にすると謳います**。その3つの活動理念とは、地域活性化であり、スポーツ文化の創造であり、バスケットボールの普及・繁栄です。

チームが強くて試合が面白いだけでは、人々のお役に立てません。そこで**地域の活性化**を活動理念の第一に掲げました。私たちは地域に根ざした「我が街のクラブづくり」を目指し、**地域愛着活動**を積極的に行います。具体的にはスポーツツーリズムを確立し**観光に寄与**すること、アリーナでバスケットボール以外のエンタメやグルメなどを盛り込んで街を盛り上げること、そうした興行をしていきます。他にも、選手が幼稚園や保育園に出かけていくなど、**バスケットボールに関わりがない方たちと**

きたくお願いをしました。また、今回本誌でお世話になったように、長野商工会議所会員の皆様へ向け情報発信でもお力添えください。

信州ブレイブウォリアーズのホームアリーナ「ホワイトリング」では、昨年の11月にウォリアーズの試合観戦とセットで新卒採用のための**企業合同説明会**を開催しました。サブアリーナでの講演セミナー、面接の後、当チームの試合を観戦していただくという趣向で行いました。長野商工会議所が普段されている事業も、ぜひバスケットボール会場をご活用いただきたいです。

さらに、**観光との融合**も模索しています。バスケットボールは冬の屋内スポーツです。スキーやスノーボード、温泉を目的として長野県を訪れた**県内外さらに海外からのお客様**をプロバスケットボール観戦にも呼び込むパッケージづくりも一案です。農産物をはじめ長野県の特産物を味わったり体験したりするスポーツツーリズムも企画します。

スポーツを運動や教育にとどめず、**産業振興にも結びつけられるのが、プロスポーツが持つ本来の力**です。皆様には、ぜひ**信州ブレイブウォリアーズをフル活用**していただきたいという気持ちでおります。そして、一人でも多くの長野商工会議所会員とご家族の方々に、ホワイトリングへ足を運んでいただくようお願いいたします。

## 片貝 雅彦さんの横顔



高校時代は野球で甲子園を目指した。趣味は音楽鑑賞や読書。いつか時間がつくれたら、長野県の雄大な山々に登ってみたいと話す。